

令和2年2月定例市議会

行政報告要旨

総社市

本日、2月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。また日頃から市議会をはじめ、市民の皆様には、市政の推進に、格別のご協力を賜っておりますことを、重ねてお礼申し上げます。

行政報告に先立ち、「2020そうじゃ吉備路マラソン」中止の決定と、新型コロナウイルス対策について、ご報告をさせていただきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、私は、吉備路マラソン中止という、苦渋の決断をいたしました。新型コロナウイルス関連の情勢が、日々刻々と、塗り替えられる中、万全の防御策を講じて大会準備を進めておりましたが、市民の皆様、及びランナーや、関係者の皆様の安心・安全を最優先し、中止の判断に至りました。大会を心待ちにされていたランナーの方々、及び関係者の方々に、お詫びいたしますとともに、引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大防止に、十分な体制を整えてまいります。

本日、第2回目となる「新型コロナウイルス感染症に関する連絡会議」を開催いたしました。改めて、国や県、保健所、医療機関などとの、緊密な連絡体制を、確認したところでございます。なにより、住民と最も近い立場にある基礎自治体としての役割を強く認識し、市内企業や、コミュニティ地域づくり協議会のご協力もいただきながら、市民の皆様に安心していただけるよう、周知徹底を図っているところでございます。いざというときに、適切な決断を行うためにも、正確な情報収集に努め、関係機関と連携し、市民を、一番に守りぬく決意でございます。

#### 1) 令和2年度当初予算「右肩上がりに伸ばす予算」

それでは、はじめに、総社市を右肩上がりに伸ばしていくために、私自身がこれまで築いてきた過去から脱却し、未来へ向けて、果敢に挑戦するための、令和2年度当初予算の概略について、ご報告いたします。

一般会計における予算総額は、274億5千万円で、令和元年度の300億6千万円と比較し、26億1千万円の減額、

率にして8.7%のマイナスとなっております。

(過去からの脱却)

過去2年連続で、300億円超えの当初予算でございました。また、平成30年度一般会計決算は、赤字となり、財政調整基金から、3億円を取り崩さなければなりませんでした。

総社小学校改築、給食調理場の新築、及びいじりの認定こども園の開園などの、大型事業を終えた今、復興を着実に実現し、過去から脱却するために、来年度当初予算の要求段階から、今年度比で、2%のマイナスシーリングを行ってまいりました。その結果、26億1千万円の減額という、緊縮予算を編成いたしました。見直しなどによる、主な要因として、3点ご説明いたします。

1点目は、私自身が作り上げてきた政策にも切り込み、聖域なき事業の取捨選択を、実行しております。主なものとして、まず、総社市を発信するための事業として、取り組んでいた、「宝福寺のライトアップ」や、「キャラ弁コンテスト」について、一定の成果が得られたと判断したことから、思い切って廃止することといたしました。また、

総社北公園における、第3種公認競技場の更新を見送り、高齢者や、障がい者への助成事業や、学校自由枠交付金なども、現実に即し、より効果的な実施方法に見直してまいります。

2点目に、全国屈指の福祉文化先駆都市の実現に向けた取組などが、功を奏し、中期財政見通しでは、決算ベースで5%の伸びを見込んでいる、扶助費の伸び率を、前年度比0.2%の増加にとどめ、ほぼ横ばいの数字で、予算計上することができております。福祉王国プログラムでは、健康寿命の延伸など、予防医療に努め、社会参加を促し、結果として、医療費や、扶助費の抑制につながっております。特に、健康インセンティブ事業には、今年度、3,290人が参加されています。自ら進んで、健康を意識する取組として、市民の間に、確実に定着していると実感しております。

3点目として、今後、予定される新庁舎の建設や、JR桃太郎線のLR T化、市立美術博物館建設構想などの、大型事業を見据え、普通建設事業費の平準化を図っております。道路新設などに、優先順位をつけ、選択と集中を行っている

ところでございます。

(未来へのGOサイン)

一方、過去からの脱却を図りながら、右肩上がりの成長を助長し、初当選の時と同じく、ほとぼしる情熱を絶やさず、常に挑戦者の気持ちで、未来へゴーサインを出したいと思えます。

2月25日現在の人口は、6万9,366人と、災害から1年以上たった現在も、人口が増え続けております。また、これに伴い、来年度、歳入予算に見込んでいる市税の額は、前年度と比べ、約1億2千万円の増加となり、伸び率は、プラス1.5%を見込んでいるところでございます。地方の大半の市町村では、人口減少に悪戦苦闘している中、総社市は千載一遇の機会に恵まれていると感じております。経済産業省が主導する、未来投資促進法による、長良と、西阿曾地区の2か所の企業誘致にも、ほぼ成功いたしました。雪舟生誕600年を迎える本年11月には、雪舟生誕地公園を開園し、新たな観光文化の発信拠点として考えてまいります。

新庁舎建設に向けた基本計画は、市民ワークショップや、

議会特別委員会である，新庁舎建設に関する小委員会などから，多くのご意見，ご要望をお伺いしながら，令和6年度中の竣工を目指し，総社らしさを追求してまいります。また，JR桃太郎線のLRT化については，議会にも，その都度ご報告しながら，総社市の繁栄の，原動力となり得るよう，最善策を練っているところでございます。

## 2) 寄り添いNO.1 市民幸福度NO.1

(人口減少地区への将来ビジョン)

こうした光り輝く，勢いのある部分に対して，人口が減少している小学校区について，将来ビジョンを作成し，寄り添いナンバーワン，市民幸福度ナンバーワンを目指してまいります。全国で行われてきた，人口減少地域に対する政策と，住民のニーズとの相違をなくし，買い物や，通院などの移動手段の確保，草刈り作業，空き家対策など，人口が減りゆく地域でも，暮らし続けるための方策を，地域と連携しながら作り上げてまいります。

(福祉王国プログラム2020)

福祉王国プログラム2020では、新たに「地域連携部会」を創設し、子ども虐待や、障がい者、認知症の方の、見守り活動などに、市役所と、地域が一体となって、取組む体制を構築することとしております。

自立や、社会参加を促進する取組として、障がい者千五百人雇用では、1月1日現在で、1,063人が就労されていますが、生活の質の向上に重点を置き、全力を尽くしてまいります。また、引きこもり支援センター「ワンタッチ」では、1月末日現在、256人から相談があり、そのうち、35人が、就労やボランティア、進学など、社会参加を果たされています。来年度は、川西地区に、2か所目の居場所を設置し、未来へつながる第一歩に、手を差し伸べたいと考えております。

待機児童ゼロ部会では、昨年10月から始まった、幼児教育・保育の無償化などの影響もあり、2月1日現在、16人の待機児童を抱えております。引続き、保育士の負担軽減を図るとともに、4月から始まる、三須幼稚園での



預かり保育や、総社、常盤幼稚園での預かり保育の定員拡充などの、対応策を講じてまいります。真に、保育を必要とされているご家庭が、安心して、お子様を預けられる体制が構築できるよう、国や県にも、保育の実情を提言してまいりたいと考えております。

他にも、国の施策は、在住外国人の、雇用の部分にばかり目が向けられておりますが、総社市を、第2のふるさとと、思っただけできるよう、地域とともに、多文化共生を推進してまいります。また、先の議会で、頓宮議員からのご質問にもございましたが、LGBTなど、性的マイノリティの方に対する配慮も、積極的に取り入れております。国民健康保険の、被保険者証に記載される、性別や氏名の表記については、記載方法が変更できることを、市ホームページなどで、周知しているところでございます。また、他の公文書の性別記載欄の見直しも、随時、行ってまいります。

引続き、障がい者雇用、引きこもり支援、多文化共生、LGBTなど、国の定めが明確でなく、地方任せにされている、社会的な課題に真正面から対峙し、あらゆる立場から、

国に提言も行ってまいります。光の当たらない部分で苦勞されている，社会的に弱い立場にある方々に対する思いは，いつまでも変わらず持ち続け，子どもからお年寄りまで，市全体に，優しさが醸成される社会を実現させたいと考えております。

### 3) 復興へ待ったなし

3本目の柱として，復興に向けた取組は，待ったなしの状況でございます。

来年度当初予算として，まず，復興住宅の整備には，仮設住宅の撤去と併せて，2億7,700万円余りを計上しております。復興住宅へは，16世帯が入居を希望されており，現在ある仮設住宅の基礎を強固にし，防音・断熱性能を向上させるなどの工事を，予定しているところでございます。国において，仮設住宅の入居期間が，延長されたところではございますが，これに甘んずることなく，前倒しできるものは前倒しし，一刻も早く，被災者の方が心身ともに落ち着いた生活を取り戻していただけるよう，尽力してまいります。

また、みなし仮設住宅への、家賃助成を希望される27世帯への支援も、継続してまいります。

秦、及び美袋地区における、内水排除用の排水ポンプの設置、水内、草田、砂古地区のための、可搬型ポンプなどの配備、下原、作原地区の避難路、日羽地区の、防災拠点施設の整備などの、インフラ整備については、地域の意向を充分汲み上げてまいります。

災害廃棄物の処理や、被災家屋の解体などの復旧事業は、復興元年である令和元年度中に、大筋の目途が立ったところでございます。復興事業についても、スピード感をもって進め、可能な限り、繰り上げて対応してまいります。また、引続き、被災者の方が抱える焦燥感、空虚感に向き合い、心の復興に寄り添ってまいります。

### **(11月議会での検討事項について)**

ここで、11月議会での検討事項としたものにつきまして、その結果をご報告いたします。

まず、ハザードマップについては、山田議員をはじめ、多くのご意見をいただいております。今回、作成いたしましたハザードマップには、非常持ち出し品の例や、避難所一覧、罹災証明発行のポイント、防災重点ため池の位置なども盛り込んでおります。3月中に、市内全戸に配布いたしますので、平時から、ご家庭や地域で、避難所や危険箇所などをご確認いただき、災害時には、避難の指針として、ご活用ください。

次に、三宅議員からご質問のありました、歯科検診の受診促進について、来年度から、75歳から79歳の、歯周疾患検診を追加することとしております。

岡崎議員からは、今年10月から公費負担となるロタワクチン接種についてのご質問がございました。制度のはざままで接種の対象外となる乳児について、来年度当初予算に、接種費用の助成経費を計上し、救済措置を行ってまいります。

現在総社市は、人口が増え、税収が増え、雇用が増え、好循環が続いております。この好機を着実にとらえ、正なる

スパイラルアップを目指し、将来を俯瞰しながら、常に挑戦を続けてまいります。そして、これこそが、総社市を、さらに右肩上がりの成長に導く道筋となり、市民全員を幸せにする手段であると、私は考えます。職員一丸となって、前進してまいりますので、議員の皆様におかれましても、一層のご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私からの行政報告とさせていただきます。